

## 第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成28年9月29日(木)

公開1 13:20~14:05 公開2 14:20~15:05

児 童 1組 男19名 女12名 計31名

2組 男17名 女13名 計30名

指導者 里館 玲子(公開1)

島山 裕乃(公開2)

1 単元名 まとまりに分けてお話を書き、2年〇組本屋さんをつくろう(光村図書下P.28)

2 教材名 「お話のさくしゃになろう」

3 単元について

(1) 教材について

本単元の指導のねらいは、「絵から想像を広げ、どんな出来事が起こるか楽しんで考えながら、お話を書いている。」「絵を見て出来事や会話を想像して場面や登場人物を設定しながら、『初』『中』『終わり』の順序にそって筋を考えて物語を書くことができる。」「句読点のうち方やかぎの使い方を理解して文章の中で使うことができる。」ことである。

本教材では、教科書に物語の「初め」と「終わり」の二枚の絵が提示されており、「中」は空白である。「中」にあたる部分を児童が自由に想像力を働かせて考えることができ、児童が楽しみながら取り組むことができる。また、絵に合わせてお話を作っていくことで、「初め」「中」「終わり」の構成を意識し、「中」で出来事が起こることを理解することができる。

教科書の例から、いろいろな書き出しの表現方法に触れるとともに、「初め」に人物設定や場面設定を書くという意識をもつことができる。また、お話作りを進めながら、書いた文章を読み返し、推敲を行うことで、誤字・脱字を直したり句読点やかぎや助詞の使い方を改めて理解したりし、文の中で語句を大事に使う力を養うことができる。これらのことを学ぶことができる本教材は、本単元の指導のねらいにせまるために適した教材である。

(2) 指導について

指導にあたっては、相手意識、目的意識をもたせ、楽しみながら意欲的に書く活動に取り組めるようにしたい。お話づくりの際には、「初め」と「終わり」の絵の様子の変化からそのちがいをを見つけさせ、「初め」「中」「終わり」の構成を意識させる。さらに文章を書くにあたって、構成メモを書かせるなどして自由に想像力を働かせて考えられるようにしたい。また、書いた文章を読み返し、句読点、かぎ、助詞の間違いを正すことができるようにもしたい。

そのためには、第一に自分が作者になってお話を作り、友だちやお家の人に読んでもらう

という目的を明らかにし、見通しをもちながら学習できるようにさせる。

第二に「初め」と「終わり」の絵から場面の變化に気付かせ、「初め」と「終わり」の關係を意識させる。そして、お話を作り上げるには「中」が必要なことに気付かせる。「中」の出来事を友だちとの話し合いを通して想像を広げ、出来事（事件）、人物が話した言葉（会話）を構想メモに書かせる。

第三に、「初め」「中」「終わり」の話を書き終える度に、誤字・脱字、句読点、助詞に気を付けて読み返しをさせる。その際には、「初め」「中」「終わり」のつながりも確認させる。全てを書き終えた後には、推敲のポイントを確認し、推敲を行う。

第四に、「初め」「中」「終わり」を書き終える度に、友だち同士でいいなと思ったところやおもしろいと思ったところを交流し合って、意欲付けを図りたい。

### (3) 研究との関わり

#### 【書く活動を通して、自らの考えが明確になるような手立て】

- ・自分が想像したことをメモにまとめて、「初め」「中」「終わり」のまとまりに分けて書く方法を活用する。  
**(既習事項の活用)**
- ・例を示してメモにまとめたり、メモとメモをつなげて書き進めたりすればよいことをとらえさせる。  
**(見通しのもたせ方の工夫)**

#### 【他者との交流を通して自らの考えを深められるような手立て】

- ・確かめ合いがスムーズにいくように、ペアあるいは3人グループを決めておく。支援を要する児童も配慮して入れておく。**(話し合いの仕方の工夫)**
- ・読み手が楽しめるような言葉や文を使って書いているかに気を付けて読ませ、よさを交流させる。  
**(目的の明確化)**

## 4 単元の目標

【国語への関心・意欲・態度】 絵から想像を広げ、どんな出来事が起こるか楽しんで考えながら、お話を書こうとすることができる。

【書く能力】 絵を見て出来事や会話を想像して場面や登場人物を設定しながら、「初め」「中」「終わり」の順序にそって筋を考えて物語を書くことができる。

【言語についての知識・理解・技能】 句読点の打ち方や、かぎ（「 」）の使い方を理解して文章の中で使うことができる。

## 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
絵から想像を広げ、どんな出来事が起こるか楽しんで考えながら、お話を書いている。	出来事や会話を想像して、場面や人物を設定している。(1) ア 作った物語を交換して読み合い、感想を交流している。(1) オ	句読点の打ち方や、かぎの使い方を理解して文章の中で使っている。(1)イ(オ)

6 単元を通した言語活動

言語活動	想像したことなどを文章に書く（お話づくり）
目的	2年〇組本屋をつくる（オリジナルブックづくり）
相手	学級の友だち 保護者
様式	500字程度の物語（「初め・中・終わり」の形式・挿絵）

7 単元指導計画（11時間）

	時	目標	学習活動	指導・支援	具体的評価規準
第一次	1	学習課題を理解し、楽しんでお話を書こうという意欲をもつことができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">学習けいかくを立てよう。</div> ① これまでに学習したお話の題名とその作者名を結び付け、作者について意識させる。 ② 「まとまりに気を付けて、お話を書こう」という学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。	・物語の題名と作者当てクイズを行い、お話づくりへの興味や関心を喚起する。 ・P28を読んで、「初め」と「終わり」の絵の違いに気付かせる。 ・「学しゅうのすすめ方」を読んで学習の見通しをもたせる。	関楽しんでお話を書こうという意欲をもつことができたか。 （観察）
	2	自分のお話に出てくる人物の名前と人物像を決めることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">お話づくりのアイデアを考えよう。</div> ① 登場人物の名前や人物像について考える。 ② お話のおおまかな組み立てを考える。 ③ 考えた人物名と人物像を交流する。	・人物の名前と人物像について友だちと教え合い想像を膨らませる。 ・「中」を大まかにどんな内容にするか考えさせる。 ・交流を通して、より想像力を膨らませる。	書想像したことを手がかりにして、お話に出てくる人物と人物像を決めている。(1)ア （ワークシート）
第二次	3	「中」で起こる出来事を考え、メモにまとめることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「中」のできごとを考えよう。</div> ① 「中」に書く出来事の例を確かめる。	・P30の例を参考に ・「中」ではどんな出来事が起こるのかを考えさせる。	書「中」で出会う人物や出来事を考えて、メモにまとめている。(1)ア （ワークシート）

		<p>②「中」に書く出来事を考え、簡単な挿絵を描く。</p> <p>③「中」に書く出来事をメモにまとめる。</p>	<p>・「中」で起こる出来事を表すような挿絵を描かせて、イメージを膨らませる。</p> <p>・「中」で起こる出来事をメモに書かせる。</p>	
4	「中」のできごとにつながるように「初め」と「終わり」に書く内容をメモにまとめることができる。	<p>「はじめ」と「おわり」に書くことを考えよう。</p> <p>①「初め」に書くことを考える。</p> <p>②「終わり」に書くことを考える。</p> <p>③出来上がったメモを見直す。</p>	<p>・「中」の出来事を中心にお話作りを進めることを理解させ、「初め」には登場人物の紹介を書くようにさせる。</p> <p>・「終わり」には「中」の出来事に続く結果を書かせるようにさせる。</p> <p>・「初め」「中」「終わり」のつながりに気を付けて見直しをさせる。</p>	<p>書「中」の出来事につながるように「初め」「終わり」の出来事をメモにまとめている。(1)ア (ワークシート)</p>
5	お話の流れを紹介し合い、友だちの感想や助言を参考にして、メモを書き直すことができる。	<p>考えたことを「はじめ」「中」「終わり」のじゅんでとなりの人にせつめいしよう。</p> <p>①友だちとお話の流れを説明し合う。</p> <p>②メモの手直しをする。</p>	<p>いいなと思ったところを伝えさせる。また、もっと詳しく知りたいところは質問させたりして、内容を深めさせる。</p> <p>・友だちの感想や助言を参考にして、メモを選んだり、メモに付け加えたりさせる。</p>	<p>書友だちの感想や助言を参考にして、メモを書き直している。(1)ア (ワークシート)</p>
6 (公開1)	人物の紹介を入れながら、メモをもとに「初め」の話を	<p>メモをもとに「はじめ」のお話を書こう。</p> <p>①書き出しの例を見て、書き方を理解する。</p>	<p>・既習の物語の「初め」の部分小提示してイメー</p>	<p>書人物の紹介を入れながらメモをもとに「初め」のお話を書いて</p>

	書くことができる。	<p>②「初め」の話を書く。</p> <p>③「初め」の話を交流し合う。</p>	<p>ジを膨らませ、「初め」には人物の名前と人物像について書くことを押えさせる。</p> <p>・「初め」のお話で、人物の名前や人物像が書かれているか確かめさせる。</p>	<p>いる。(1)ア (ワークシート)</p>
7  (公開2)	<p>メモをもとに、「中」の出来事が読む人に分かるように文を書くことができる。</p>	<p>メモをもとに「中」のお話を書こう。</p> <p>①「中」の話を書く。</p> <p>②書いた文を交流する。</p>	<p>・前に書いたメモをもとに人物が「したこと」「話したこと」を取り入れて話を書かせる。</p> <p>・読み手が楽しめるように工夫させる。</p> <p>・良さやおもしろさを見つけさせる。</p>	<p><b>書</b>メモをもとに、「中」の出来事が読む人が楽しめるように文を書いている。 (1)ア (ワークシート)</p>
8	<p>メモをもとに絵と対応させて「終わり」の話を書き、ぴったりの題名を考えることができる。</p>	<p>メモをもとに「終わり」のお話を書こう。</p> <p>①「初め」「中」の話を読み直す。</p> <p>②「終わり」の話を考えて、書く。</p> <p>③話の題名を考える。</p>	<p>・「初め」と「中」を読み返すことで、話のつながりを意識させる。</p> <p>・参考にする「終わり」の話を例示する。</p> <p>・絵との対応も考えて「終わり」を書くようにさせる。</p> <p>・既習の物語の題名を示して、他の人が読んでみたいと思うような題名を考えさせる。</p>	<p><b>書</b>絵と対応させて、終わりのお話を書き、ぴったりの題名を付けることができたか。(1)ア (ワークシート)</p>
9	<p>できあがったお話を声に出して読み、分かりにくいところや、誤字・脱字を直して</p>	<p>つくったお話を読みかえして、正しく書きなおそう。</p> <p>①推敲のポイントを確認する。</p>	<p>・P4「いつも気をつけよう」の「書くとき」を読ませて、気を付けるこ</p>	<p><b>言</b>句読点や助詞、かぎを正しく使っている。(1)イ(オ) (ワークシート)</p>

第三次		清書することができる。	<p>②作品を読み返し、誤字や脱字、文のねじれなどを直す。</p> <p>③ 清書する。</p>	<p>とを押さえさせる。</p> <p>・P145~146を見て、習った漢字を使うようにさせる。また、声に出して読ませて、誤字脱字に気を付けさせる。</p>	
	10	清書したお話をもとに楽しい絵本を作ることができる。	<p>楽しい絵本をつくろう。</p> <p>① お話をページ分けして貼り付ける。</p> <p>② ページごとに絵を貼ったり、描いたりする。</p>	<p>・「中」の部分をもとに、2~3場面に分けさせる。</p> <p>・絵を描くのが苦手の児童には教科書のコピーを活用させる。</p>	<p>関自分だけのオリジナル絵本を楽しんで作っている。</p>
	11	書いた作品を読み合い、おもしろいなど思ったところやいいなど思ったところを伝え合うことができる。	<p>できあがった絵本を友だちと読み合っ、かんそうをつたえ合おう。</p> <p>①作品を交換して読み合い感想を伝え合う。</p> <p>②作品を読み合った感想を発表し、学習を振り返る。</p>	<p>・p33を読んで、おもしろいなど思ったところやいいなど思ったところを伝える意欲を高めさせる。</p> <p>・友だちの作品の良さを付箋紙に書かせ、伝えさせるようにする。</p>	<p>書書いた作品を読み合い、おもしろいなど思ったところやいいなど思ったところを伝え合っている。(1)オ</p>

## 8 本時の指導（6／11時間目）

### （1）児童について

本学級の児童は、音読をしたり読み聞かせを聞いたりすることは好むが、作文を書いたり自分の考えを話すことが苦手な児童が多い。また、個人差が大きく、個別に指導しないと作業を進められない児童もいる。

1学期の「かんさつ名人になろう」では、相手に伝えたいことをくわしく観察してメモを取り、組み立てを考えて書く学習を行っている。「こんなもの 見つけたよ」では、生活科探検で発見したことの中からお家の人に伝えたいことをメモにして、「初め」「中」「終わり」の組み立てを生かして書く学習を行っている。また、どちらの単元でも書いた文章を読み直して間違いを直したり、友だちと読み合っ感想を伝え合ったりしている。これらの学習を通して、児童は書くことに対する抵抗が減り、書く楽しさを感じることができるようになってきている。

本単元では、既習事項を活用しながら、自由に想像を働かせて自分だけのお話を書き進められるようにしたい。

### （2）目標

人物の紹介を入れながら、メモをもとに「初め」の話を書くことができる。

### （3）評価規準

評価規準	概ね満足	支援を要する児童への手立て
書人物の紹介を入れながらメモを基に「初め」のお話を書いている。 (ワークシート)	書書き出しのパターンやメモとメモをつなげて文を書く方法を活用しながら、「初め」のお話を書いている。	・書き出しのパターンを1つ選ばせて、書き方をまねさせる。 ・絵や構想メモを確認させる。

### （4）研究との関わり

#### 【書く活動を通して、自らの考えが明確になるような手立て】

- ・既習単元で学習した物語の書き出しのパターン、メモとメモをつなげて文を書く方法を活用する。**（既習事項の活用）**
- ・書き出しのパターンを参考にして、「初め」の書き方を理解させる。実態に応じたヒントカードを使う。**（見通しのもたせ方の工夫）**

#### 【他者との交流を通して自らの考えを深められるような手立て】

- ・確かめ合いがスムーズにいくように、ペアあるいは3人グループを決めておく。支援を要する児童も配慮して入れておく。**（話し合いの仕方の工夫）**
- ・交流の視点として、「初め」には登場人物について説明する言葉が書いてあるかに気を付けて読むように示して、確認させる。**（目的の明確化）**

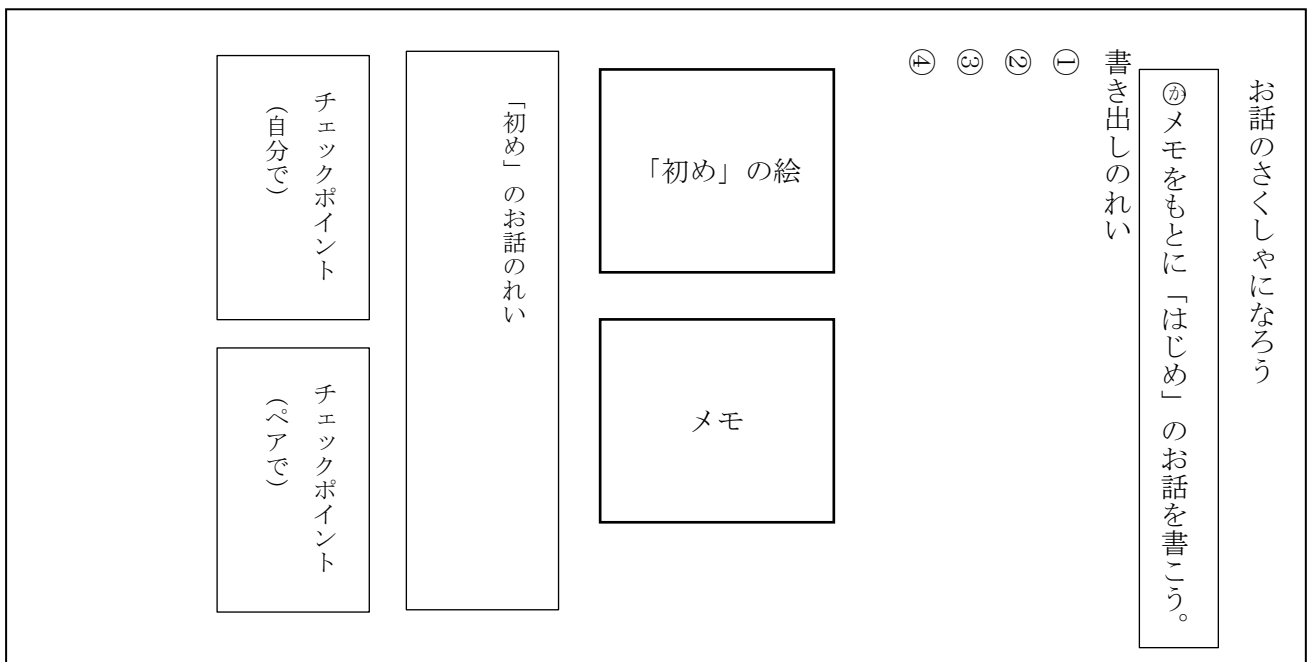
(5) 展開

	学習内容と活動	教師の働きかけと評価
導入 8分	1 前時までの活動をふりかえる。 2 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">             メモをもとに「はじめ」のお話を書こう。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までに、話のおおまかな流れを考えてきたので、いよいよ書き始めることの意欲を高めさせる。</li> </ul>
展開 30分	3 学習の見通しをもつ (1) 書き出しのパターンを知る。 ①「〇〇(主人公)は、」から始める。 ②昔話のように始める。 ③「会話」から始める。 ④主人公が話しているように始める。 (2)「初め」の書き方を確認する。  4 学習課題を解決する。 (1) 自力解決をする。 ①「初め」の文を書く。  ②書いた文章を自分でチェックする。 <チェックポイント> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メモをつかったか</li> <li>・どんなじんぶつか書けたか</li> </ul> </div> (2) ペア学習する。 <交流ポイント> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの書き出しか</li> <li>・どんなじんぶつか</li> <li>・よいところを見つける</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の書き出しの作例と、既習の物語の書き出しを例示し、仲間分けしながらそれぞれの書き出しの特徴に気付かせる。</li> <li>◎既習単元で学習した物語の書き出しのパターン、メモとメモをつなげて文を書く方法を活用する。<b>(既習事項の活用)</b></li> <li>・メモからどのように書き出しを始めるか例示して理解させる。</li> <li>・「<span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;"> </span>」を使うと、生き生きした文になることも理解させる。</li> <li>◎書き出しのパターンを参考にして、「初め」の書き方を理解させる。実態に応じたヒントカードを使う。<b>(見通しのもたせ方の工夫)</b></li> <li>・児童にそれぞれ書きやすいパターンを選ばせ、それにならってメモを見ながら「初め」の文を書かせる。</li> <li>・なかなか書き出せない児童には、教師の作例を真似させる。</li> <li>・「初め」の文が書けたら、チェックポイントにそって、読み直しをさせる。</li> <li>◎確かめ合いがスムーズにいくように、ペアあるいは3人グループを決めておく。支援を要する児童も配慮して入れておく。<b>(話し合いの仕方)</b></li> <li>◎交流の視点として、「初め」には登場人物について説明する言葉が書いてあるかに気をつけて読むように示して、確認させる。<b>(目的の明確化)</b></li> </ul>



	<p>(3) 全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2人の文を紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人物の紹介の仕方、よかった所を伝え合うようにさせる。</li> <li>・赤鉛筆を使って直したり、書き加えたりさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[評価]</p> <p>書き出しのパターンやメモとメモをつなげて文を書く方法を活用しながら、「初め」のお話を書いている。</p> <p>(ワークシート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクターで 2 人のお話を紹介し、全員で、どのように人物紹介をしているかを確認させる。</li> </ul>
<p>終末 7分</p>	<p>5 学習の振り返りをする。</p> <p>(1) ABC で自己評価する。</p> <p>(2) わかったこと、よかったことを記述する。</p> <p>6 次時の学習内容について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「初め」の文で、人物の紹介ができたかどうかで振り返りをさせる。</li> <li>・書き出しのパターンを使って人物紹介をすると、「初め」の文がうまく書けることを押さえさせる。</li> <li>・「初め」の話を書いたことで、オリジナル絵本づくりが進んでいることを伝え、次時への意欲付けを図る。</li> <li>・次時は「中」を書くことを伝える。</li> </ul>

(6) 板書計画



## 8 本時の指導（7／11時間目）

### （1）児童について

本学級の児童は、真面目に学習に取り組み、読書や作文を好む児童が多い。しかし、学習全般に能力の差が大きく、個別に指導しないと作業を進められない児童もいる。また、話すことに関しては苦手意識をもつ児童も少なくない。

1学期の単元「かんさつ名人になろう」では、相手に伝えたいことを、詳しく観察してメモを取り、組み立てを考えて書く学習を行っている。「こんなもの 見つけたよ」では、知らせたいことをメモにとり、「はじめ」「中」「おわり」の組み立てを生かして書く学習を行っている。また、どちらの単元でも、書いた文章を読み返しポイントにそって間違いを直したり、友達と読み合い感想を伝え合ったりしている。児童は意欲的に取り組み、書くことに苦手意識をもつ児童もヒントカードを活用しながら単位時間内に書き進め交流を楽しんだ。書き上げたことに満足し、自信へとつながった。

本単元でも、ヒントカードや交流により、自分だけの物語を想像し、書き進められるようにしたい。また、よさを取り上げ、満足感を味わわせていきたい。

### （2）目標

メモをもとに、「中」の出来事が読む人に分かるように文を書くことができる。

### （3）評価規準

評価規準	概ね満足	支援を要する児童への手立て
書メモをもとに、「中」の出来事が、読む人が楽しめるように文を書いている。 (ワークシート)	書メモをもとに、「中」の出来事が、読む人が楽しめるように、言葉や文をつけたしながら文を書いている。	・例を示したり、ヒントカードを使わせたりして、同じように書かせる。 ・ペアで確かめ合い、アドバイスし合うことで書かせるようにさせる。

### （4）研究との関わり

#### 【書く活動を通して、自らの考えが明確になるような手立て】

- ・既習単元で学習したくわしくする言葉、メモとメモをつなげて文を書く方法を活用する。

#### （既習事項の活用）

- ・例を示し、メモとメモをつなげて書き進めればよいことをとらえさせる。実態に応じたヒントカードを使う。（見通しのもたせ方の工夫）

#### 【他者との交流を通して自らの考えを深められるような手立て】

- ・確かめ合いがスムーズにいくように、ペアあるいは3人グループを決めておく。支援を要する児童も配慮して入れておく。（話し合いの仕方の工夫）
- ・「中」の出来事が、読む人が楽しめるように、メモとメモの間に言葉や文を補って文が書けたか確認させる。（目的の明確化）

(5) 展開

段階	学習内容と活動	教師の働きかけと評価
導入 5分	<p>1 前時の学習を想起する。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p> <p>メモをもとに「中」のお話を書こう。</p>	<p>・前時に「はじめ」を書き、今日はメモしたことをつないで、読む人が楽しめるように「中」の出来事を書くことを伝える。</p>
展開 35分	<p>3 学習の見通しをもつ。 読む人が楽しめるように、文や言葉を付け足しながらメモをつなげて書く。</p> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だれが、どうしたか。</li> <li>・どんなふうにしたか。言ったか。</li> <li>・メモがつながるようにつけたす。</li> </ul> <p>・つなぎ言葉 [すると、ところが、とうとう、ついに]</p> <p>・くわしくする言葉 [わらいながら —みたいに]</p> <p>・つなげる文 [すると、どうでしょう。 なんどもなんどもれんしゅうしました。 など]</p> <p>4 学習課題を解決する。 (1) 自力解決</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①メモを読む。</li> <li>②メモを見ながら、中の部分を書く。 (200字～400字程度)</li> <li>③書き終えたら読み返す。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だれが、どうしたか。</li> <li>・どんなふうにしたか。言ったか。</li> <li>・メモがつながったか。</li> </ul> <p>5 書いた文を確認する。 (1) ペアで確かめ合う。 交流のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分からないところを聞く。</li> <li>・つけたしたほうが楽しくなることばや文</li> <li>・よいところや楽しいところ</li> </ul>	<p>・人物がしたこと、会話のメモを確認させる。</p> <p>◎既習単元で学習したくわしくする言葉、メモとメモをつなげて文を書く方法を活用する。 <b>(既習事項の活用)</b></p> <p>◎例を示し、メモとメモをつなげて書き進めればよいことをとらえさせる。 <b>(見通しのもたせ方の工夫)</b></p> <p>・読む人が楽しめるように、例を示し、メモ以外にもどんどん付け足して書いてよいことを伝える。</p> <p>・今まで読んだ物語や友達が書いた文などから、使えそうな言葉や文を例示し、全体で確認する。</p> <p>・ゆっくり読ませ、確かめさせる。読みながらつけたしたい言葉などはメモに赤で書かせる。文を書きながらつけたしてもよいことを伝える。</p> <p>◎書き進められない児童には、ヒントカードを準備しておく。<b>(見通しのもたせ方の工夫)</b></p> <p>◎確かめ合いがスムーズにいくように、ペアあるいは3人グループを決めておく。支援を要する児童も配慮して入れておく。 <b>(話し合いの仕方の工夫)</b></p>

	<p>・付け足したい言葉や文を赤鉛筆で書く。</p> <p>(2) 全体で確認する。</p> <p>・よくなった文章やよさが伝わる文章を取り上げ、今後に活用させる。</p>	<p>◎「中」の出来事が、読む人が楽しめるように、メモとメモの間に言葉や文を補って文が書けたか確認させる。(目的の明確化)</p> <p>・文を見せながら発表する。聞く人は分からないところを聞いたり、つけたしたい言葉や文をアドバイスしたりする。</p> <p>・赤鉛筆を使って付け足しや削除をさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[評価]</p> <p>メモをもとに、中の出来事が読む人が楽しめるように、言葉や文をつけたしながら文を書いている。</p> <p>(ワークシート)</p> </div> <p>・必要に応じて実物投影機で確認させる。</p> <p>・メモに、詳しくする言葉や文をつけたしながら書くと、読む人が楽しく読めることを押さえる。</p>
<p>終末5分</p>	<p>6 学習の振り返りをする。</p> <p>(1) 今日の学習で分かったことやよかったこと等をワークシートに書く。</p> <p>(2) ◎○△で自己評価する。</p> <p>7 次時の学習内容について知る。</p>	<p>・どんなことが分かったか、友だちの文のよさ等書かせる。</p> <p>・次時は、「おわり」の文を書くことを伝える。</p>

(6) 板書計画

かだい

メモをもとに「中」のお話を書こう。

読む人が楽しめるように書く

- ・だれが、どうしたか
- ・どんなふうにしたか。言ったか。
- ・つけたししてメモがつながるように

こうりゆうのポイント

- ・わからないところ
- ・つけたしたほうが楽しくなるような言葉や文
- ・よいところや楽しいところ

ふりかえり

ぼくは、読む人が楽しめるようにくに気を付けて書きました。